

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第16号 平成21年1月号

冨搦げ 羽根つき 雪合戦
歌留多 双六 福笑い
いちばん楽しみお年玉



発行



有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2

TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467

URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>

E-Mail info@motomiya-mcs.jp

覚えていますか? 「IT革命」

来年のことを言うとか鬼が笑うと申します。でも今回は、あえて来年の話をしたしたいと思います。

政府が策定した“**u-Japan**”戦略によると、来年2010年は「いつでも・どこでも・誰でもITの恩恵を実感できる社会」が実現する年です。

残すところあと1年。ITの恩恵って、どのように感じてもらっていますか。

アイティ ? イット ?

政府がITを推進するための政策を掲げたのは2000年(平成12年)。当時、知名度が低かった「IT」という言葉は、その推進役であった内閣総理大臣が「イット」と発言してしまったことによって、広く一般に知られるようになりました。

2001年以降“**e-Japan**”戦略として推進された各種の施策は、私たちの生活に少なからず変化をもたらしました。まだまだ未整備の地区は多いものの、光ファイバーが一般家庭にまで普及しましたし、子供たちは、各教室に配備されたパソコンを自由に操ります。高速道路のETCカードやICチップ入りのパスポート、何かと話題の地デジテレビ放送や、私どもも推進している電子申告も、“**e-Japan**”戦略の下で整備が進められました。

これまで と これから

“**e-Japan**”戦略では、ITに関するインフラの整備と利用促進に重きが置かれていました。道路網と同じで、あまねく全ての地域に十分な整備が行き届いた訳ではありませんが、政府では、一応「大成功」との評価をしています。子供たちは、幼い頃からITを道具として使う術を学んでいます。あとは、私たちが「どう使うか」です。

“**e-Japan**”戦略を後押しし、それを引き継ぐ形となった“**u-Japan**”戦略では、次のように謳っています。

「2010年までに、国民の80%がICT※は課題解決に役立つと評価する社会に」

電子メールが電話と同じ感覚で使えるようになったことで解決された課題、ありませんでしたか。

※ICT…Information and Communication Technology 「情報通信技術」

「IT革命」 から 「IT経営」へ

経済産業省では、ITの活用を単なる業務効率化に留まらず、新たな価値を創造するための活用へと脱皮させ、さらには経営課題を解決するためにもITの力を利活用する、“IT経営”を推進しています。

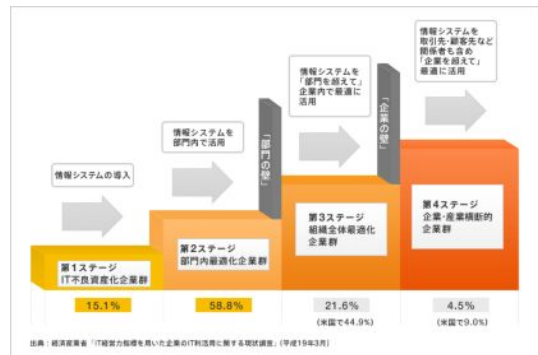
IT経営力とは、ITを経営戦略的に使いこなし、競争力や生産性の向上を実現し、経営力アップすることをいいます。

また、“IT経営”は、ITの高度な利活用によって経営戦略を遂行し、企業の生産性を高めて競争力の強化を図ることを意図しています。ITは課題克服のための選択肢を広げるとともに、実現を助ける強力なツールなのです。

----- (経済産業省資料より引用) -----

現状はどうでしょうか?

下図は、日本におけるIT経営の実態を調査した結果です。



多くの企業が、ITを導入したものの、会社全体での活用までに至っていないことがわかります。

しかし、企業としての経営戦略遂行のためにITを活用するためには、これまで、各部門、各個人がそれぞれ管理していた情報を、全社的に「見える」「使える」状態にしておかなければなりません。

だからといって、全社的な“システム”を新規に開発しなければいけない、ということではありません。

IT革命は、企業の身の丈に合わせることができ、安価で導入しやすい“IT経営ツール”も生み出しました。今後、数回に分けてご紹介いたします。

編集後記 正月早々、風邪をひいてしまいました。毎年2日が3日に行っていた初詣に、今年は元日に行ったためでしょうか。慣れないことをすると体調に変化を及ぼすようです。今年は私にとって“大厄”の歳。その始まりを病気でスタートしたとあっては、この先が思いやられます。地域によっては、この年齢に達した同級生が集まって“歳直し”(飲み会?)の行事を行うとのこと。こういったことって、IT云々が進歩したからと言って、変わるものではないのですね。(郡司)